

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	法学研究科
大項目	4 教育研究組織 (研究科)
中項目	
小項目	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。
要素	教育研究組織の編制原理 理念・目的との適合性 学術の進展や社会の要請との適合性 (KG1) 研究活動の状況
小項目	4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 自己点検・評価(2010.5.1~2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度~2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA~Dの4段階とし自ら評価した。A~D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 前期課程エキスパートコースの4つのプログラム(法律実務・公共政策・国際関係・自由研究)および2010年度より導入するビジネス法務の教育体制を点検・充実する。	→「各プログラム開講科目に関するアンケート調査の実施(教員・学生対象)」「学生の履修状況(他研究科・他大学履修を含む)と新規開講必要科目についての拡大大学院問題検討委員会における定期的検討」「複数プログラム共通科目導入の是非についての検討(2010年度)」「各年度における検討の進捗状況についての研究会委員長への報告」	B	B			
2. 前期課程の教育目標と教育研究組織との適合性を年度ごとに検証する。	→「前期課程の教育目標と5プログラム制との適合性を検証するための拡大大学院問題検討委員会の定期的開催」「プログラム間の教育実施体制を調整するためのプログラム調整委員会設置の是非についての検討(2010年度)」「各年度における検討状況と改善結果についての研究科委員会への報告」	B	B			
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」					
	→					
	→					

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価 (2)】改善すべき事項		注) 出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。
小項目4.0.1	前期課程におけるコース、プログラムの形は、学部、及び大学院における教員組織の組織編成と異なっている。この点について、5プログラム化の効果を見つつ、編成上の修正が必要かどうかを定期的に確認していくことが必要。	
★小項目4.0.2		
その他		

↓

【次年度に向けた方策(2)】改善方策		注) 出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。
小項目4.0.1	この点を改善するために、小項目4.0.2の検証の場である大学院問題検討委員会のプログラム世話人を含めた拡大組織の定常化を行うかどうかを検討し、必要であると判断された場合にはその定常化を行う。	
★小項目4.0.2		
その他		

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】	
★その他 (自由記述)	

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

○エキスパートコースの5プログラム化は順調に進展していますが、組織の適切性については定期的な検証が求められます。

【学内委員】

○効果が上がっている事項の中で、大学院問題検討委員会のモニタリングに言及されていますが、具体的な内容について、一部であっても記述することが期待されます。

○順調に進展していると判断されます。

○小項目4.0.1は、組織が理念・目的に照らして適切か、理念・目的を実現するためにふさわしいか、というものですから、この点について補足説明が望まれます。

○昨年度の次のコメントは本年度もそのままコメントとします。

・エキスパートコースに、第5のプログラムを追加し、コースの充実に向かって順調に進展しています。今後、年次の進行に従って、目標の達成によるアウトカムの評価を行うことを期待します。

【大学基準協会・評価に際し留意すべき事項】

○小項目4.0.1

基盤評価：なし

達成度評価：「教育研究組織が、当該大学、学部・研究科等の理念・目的を実現するためにふさわしいものである」

○小項目4.0.2

基盤評価：なし

達成度評価：「検証を実施する体制を整備し、責任を明確にするなどしたうえで、教育研究組織の適切性について、恒常的かつ適切に検証を行っている。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★大学院問題検討委員会は、研究室単位の代表からなっているが、必要に応じてプログラム代表の参加を求めて、拡大大学院問題検討委員会を開き、議論を行っている。